

## 詐欺防ぎ感謝状



J A筑紫大野東支店は6月6日、二セ電話詐欺の被害を未然に防いだとして、春日警察署で藤博隆署長から感謝状を受け取りました。

5月に大野東支店の岡部敏之共済担当と河鍋直幸係長が、ATMコーナーで機械の操作に手間取っている来店客の様子を不審に思い、積極的に事情を聞き取りました。「孫からの電話を受け、現金を用意したい」などという話から、二セ電話詐欺の疑いを感じたため警察へ通報。被害の未然防止に加え、犯人の検挙に至るなど大きく貢献しました。岡部担当は「大切な財産を守ることができて良かったです。今後も注意を払ってまいります」と話しました。

藤署長は「二セ電話詐欺の被害を防ぐために、最後の砦である金融機関の皆さんには、今後ご協力いただきたい」と話していました。

## 稲穂の無事祈る斎田御田植祭



太宰府天満宮は6月16日、太宰府市観世音寺で「斎田御田植祭」を斎行しました。毎年恒例の神事で、稲穂が荒天や害虫などの被害に遭わず、無事に収穫できるよう祈願します。

斎田横に設けた斎場で祭典を行い、色鮮やかな衣装を身にまとった天満宮の巫女（みこ）が「早乙女の舞」を奉納しました。祭典後、宮司による初植えに続いて、もんぺ姿の巫女（みこ）や氏子たちが斎田に入り、5月の「斎田播種（はしゅ）祭」で種もみをまいて育てた苗を、丁寧に手植えしました。

10月中旬には、稲穂を収穫する「斎田拔穂祭」がある。収穫した米は、11月の「新嘗（にいなめ）祭」で最初にお供えし、天神さまへの朝夕のお供えや、太宰府天満宮の全ての祭典や神事で使います。

## 組合長が田植えを指導



JA筑紫の白水清博組合長とJA春日支店職員は、春日市の春日市立大谷小学校5年生の総合学習の一環で田植え授業の指導を行いました。この取り組みは、児童の食育活動をサポートする目的で15年以上続いているものです。

白水組合長は田植えの前に、苗の持ち方や植え方を教え、児童は田んぼに入り、綱につけられた印に沿って苗を丁寧に植えました。初めて田植えをした児童は「土の感触が気持ちよくて、とても楽しかったです」「収穫したお米を早く食べてみたいです」と笑顔で話しました。担当の教諭は「農家の人から教えてもらいながら実際に体験することで、農業の大変さや、食の大切さを学んでほしいです」と話しました。

学校は、学習の成果を高めるために田植えなどの作業の度に絵や作文を書き、生長を観察するように児童へ促しています。また、米は10月上旬に刈り取り、おにぎりにして味わう予定です。

白水組合長は「苗がどのように生長しているか、毎日自分の目でしっかりと観察してほしいです」と話していました。